セミナー報告

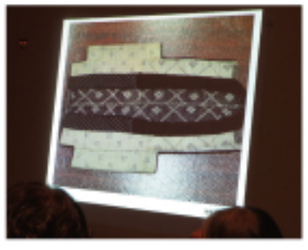
08

TTcafe

TTcafe　　タカティーの東北染織紀行Ⅱ

日時:6月20日(土)　16:00～18:00
場所:大阪市中央区南本町「サエラ」
講師:大高 亨 氏

タカティーの東北染織紀行、2回目の今回はフィールドを青森、岩手に移して、津軽こぎん、南部菱刺しを中心に南部裂織り
亀甲織り、南部型染めなどのお話です。
画像と製品を触りながらの解説は、東北の風土と気質が生んだ手仕事の面白さを語ると同時に、現在よりずっと厳しいかつての
東北地方の生活を想起させるものでした。
冬の厳しい環境抜きにはこの手仕事は考えられないと大高さんは話します。
江戸期に端を発した「こぎん」や「菱刺し」は女性たちの嗜みとして伝わった。
農民は麻布などの使用を強制され(木綿の生地の使用は明治になってから)、それでも手に入れた貴重な木綿の糸を、強度を増
し保温性をもたせるために、時には妻が夫のために一針ひとはり刺したという。
布目を津軽では奇数、南部では偶数に数え、拾い、糸を刺す。柄を工夫し、競う。
特に基本の菱型文様は地方により形が違うが３００種類をこえるとのこと。
今見られるカラフルな刺し糸は、明治になりイギリス人の宣教師によりホームスパンがもたらされて以降のものである。
南部では前掛けにカラフルな柄を競ったという。
生地の素材は、古くは大麻、苧麻、科布、オヒョウなども使い、南部地方ではアイヌの影響も有ったらしい。
着物・袖無し・たっつけ・前掛けなど野良着、普段着に使い、全面に白糸で刺したものはハレ着にも使った。
一度刺したものが傷むとその上にまた重ねて刺す事も有った。
どれもとてつもなく手間のかかったもので、長い雪に閉ざされた気候や容易には新しい着物が手に入らない生活が浮かび上が
る。
さしこ、こぎん、菱刺し以外にも裂き織、亀甲織りや型染めの紹介もありました。
苧麻をもじり織りにした肌着や着物や小物などです。
大高さんが取材に訪れたのは、弘前こぎん研究所、南部菱刺研究会、南部裂き織保存会匠工房、ホームスパンの(株)みちのくあ
かね会、(株)日本ホームスパン、亀甲織りの しずくいし麻の会、「BORO」の田中忠三郎コレクションなどです。
残された魅力的な布や生活道具などは多くの人たちによって大切に保存され、伝承されています。そんな中を大高さんは「貧し
い生活が清いとされる精神性に裏付けされ、人の想いの詰まったものばかりです」「まだまだ突込みが足りない」と言いながら精
力的に各地域を歩いています。
３回目をみんな楽しみにしています。



「海外から見た日本のデザイン性」

日時:2015.9.19(土)15:30～17:30
場所:大阪市中央区南本町「サラエ」
講師:今野文雄氏

今回のTTcafeは30年前からヨーロッパの展示会を見てまわってこられた現TDA理事長でもおられる今野氏にたくさんの画像
を見ながらお話をしていただきました。

最近のインテリア事情について、まずインテリアは部分で見るのではなく、全体で見る。
床材が基本になり、カーテンの色が決まる。その床材が最近、ハンドメイド感覚がプラスされてきているようです。
例えば、シンプルエレガンス、今までのシンプルエレガンスではなくそこにプラス、板木のような床やハンドメイドカーペットが来
ることにより、暖かさとオシャレ感が増す、拡がるというような「テーストのミックス」が傾向のようです。
カーペットのデザインも、折り紙をイメージしたものや、寄木細工っぽいモザイクカーペット等日本が参考になっているようなも
のが出ているようです。
次にジャパンテックスの出展提案の流れと、自分のデザインは自分で発表、作らないと。との思いから立ち上げた独自ブランド
「FKdesign」「minimynimo」のデザイン制作、出来上がったカーテン等商品の画像をみせて頂きました。

色々な素材×オパール加工のカーテンはとても綺麗で印象に残りました。
次にインドのカーペットメーカーの生産について作業風景や住まい等、たくさんの写真を見ながらお話をして頂きました。
インドのカーペットメーカーの作業風景などは普段あまり見ることがないので興味深かったです。大きいカーペットになると３人
がかりで織ってるものもありました。本当にすごい職人技の手仕事に関心しました。
そして最後に日本人のブランディング力について、高まる日本製品の人気。今までは大量生産と安価傾向にきたが今は、本質の
ブランディング、JAPANというブランドを立ち上げるとき。ファッション業界では純粋な日本製のものは希少価値になってきてい
る中、生産背景において繊維産地についても説明頂きました。良いもの＝高価というブランディングも必要、ブランディングの大
切さをもっと考えてのものづくりをしていかなくては…という奥深いものでした。

途中、ドイツへいった時の写真も見せて頂き、電車や駅、のどかな風景や家などすこし旅をした気分になりました。
今回会員の内丸さんがメキシコとオランダのデザイナーさんと参加されており国際色豊かなTTCafeでした。
今野理事長、たくさんの画像とお話、楽しい時間をありがとうございました

レポート:今井　要

TT café　(第三回)

今年度、第三回目12月12日(土)　15:00 ～ 16:30
大阪府立江之子島文化芸術創造センターにて開催

講師は　眞田 玲子　氏
７８３０Km の彼方から　　というタイトルで
画像を見ながら、フィンランドのライフスタイル、デザイン、アートなどのお話を、持参された北欧のお菓子(キシリトールの飴、ガ
ム、チョコetc)を、頂きながら和やかなムードの中、講演をして頂きました。
フィンランドと日本国内の活動から、日本人としての情緒、布への敬意を払い、心豊かなもの作りを心がけ創作されて来ました。
それは、２０年創作の拠点であるフィンランドの田舎町で毎夏暮らして体験したことから、自然と住まいのテキスタイル、暮らしの
中の機能美、の再発見でした。

水と木の国フィンランドの暮らしは、窓は４重ガラス、食事はジャガイモが主食で、大きいキノコ、チーズ作り、野菜サラダなどが
多い。更に、サーモン,ザリガニなどの料理やスープ、トナカイのシチュー、チョコとコーヒーなどなど…。一日４食の食事だそうで
す。夏はマットを高圧で洗い、冬に備え薪を切って貯めることなどです。
季節と共に、自然と共に過ごす毎日の暮らしです。

パーティー、披露宴などで、テーブルクロス・花などのセッティング、衣装に合ったデザインを考え、セッティングのお手伝いする
のが仕事だそうです。
裂織のものを敷いてトイレへ誘導、そこはドラえもんの「何処でもドア」のようなドアだけ……。こんなトイレある？ って感じ！ ユ
ニークです。

テキスタイルは、ダマスク織、パッチワーク、レース、カーペットetcで、織り上がると誰でも見れる様に機に掛けられ、また、どうい
ライメージで作るのかを聞かれる事が多いそうです。
色は白と赤の組み合わせが基本で多く、また木を織り込んだ鍋置きなど、自然の色合い・風合いのものが多く好まれるようです。
暮らしの中の生活用品などからデザイン化、カラフルな赤バージョンとブルー、黒バージョンの三種類を使ってバッグや小物類
を可愛く制作。
最後に、織サンプルを見せて頂き、フィンランドの自然と暮らしから生まれるテキスタルに興味を覚えました。
心暖かくなる楽しい時間でした。

記　野々口 悟